



## 2023年3月期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年5月11日

上場会社名 JCRファーマ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4552 URL <https://www.jcrpharm.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 芦田 信  
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員経営戦略本部長 (氏名) 伊藤 洋 TEL 0797(32)1995  
 定時株主総会開催予定日 2023年6月21日 配当支払開始予定日 2023年6月22日  
 有価証券報告書提出予定日 2023年6月21日  
 決算補足説明資料作成の有無：有  
 決算説明会開催の有無：有（機関投資家及びアナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2023年3月期の連結業績（2022年4月1日～2023年3月31日）

#### （1）連結経営成績

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期	34,343	△32.8	4,975	△75.0	5,418	△73.6	3,772	△74.0
2022年3月期	51,082	69.8	19,933	141.1	20,512	141.6	14,507	110.5

（注）包括利益 2023年3月期 3,881百万円（△73.3%） 2022年3月期 14,514百万円（112.2%）

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2023年3月期	30.35	30.22	7.4	5.6	14.5
2022年3月期	117.26	116.80	32.9	24.0	39.0

（参考）持分法投資損益 2023年3月期 △7百万円 2022年3月期 -百万円

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期	94,937	52,413	54.2	412.11
2022年3月期	97,134	51,089	51.8	406.57

（参考）自己資本 2023年3月期 51,421百万円 2022年3月期 50,316百万円

#### （3）連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2023年3月期	△5,500	△15,002	1,948	13,278
2022年3月期	9,289	△3,250	△2,179	30,733

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2022年3月期	-	10.00	-	12.00	22.00	2,730	18.8	6.2
2023年3月期	-	10.00	-	10.00	20.00	2,502	65.9	4.9
2024年3月期(予想)	-	10.00	-	10.00	20.00		65.4	

（注）2022年3月期期末配当金の内訳 普通配当10円00銭 特別配当2円00銭

### 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,900	7.4	5,600	12.5	5,200	△4.0	3,800	0.7	30.56

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有  
② ①以外の会計方針の変更：無  
③ 会計上の見積りの変更：無  
④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料13ページ「3. 連結財務諸表及び主な注記 (5) 連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数

2023年3月期	129,686,308株	2022年3月期	129,686,308株
2023年3月期	4,910,773株	2022年3月期	5,929,344株
2023年3月期	124,307,714株	2022年3月期	123,720,398株

(参考) 個別業績の概要

1. 2023年3月期の個別業績 (2022年4月1日~2023年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期	34,343	△32.8	5,095	△74.7	5,284	△74.1	3,687	△74.5
2022年3月期	51,081	69.8	20,137	133.0	20,425	137.7	14,446	104.0

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期	29.67	29.54
2022年3月期	116.77	116.31

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期	94,551	52,006	54.2	410.86
2022年3月期	97,033	50,939	51.9	407.02

(参考) 自己資本 2023年3月期 51,265百万円 2022年3月期 50,371百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「経営成績に関する概況」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 経営成績に関する概況	2
(2) 財政状態に関する概況	4
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 連結貸借対照表	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
連結損益計算書	8
連結包括利益計算書	9
(3) 連結株主資本等変動計算書	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(会計方針の変更)	13
(連結損益計算書関係)	13
(セグメント情報)	13
(1株当たり情報)	14
(重要な後発事象)	15
4. その他	16
研究開発項目	16

## 1. 経営成績等の概況

## (1) 経営成績に関する概況

## ①当期の経営成績

売上高は343億43百万円（前期比32.8%減）となりました。

遺伝子組換え天然型ヒト成長ホルモン製剤「グロウジェクト<sup>®</sup>」は、販売数量は増加しましたが、2022年4月の薬価改定の影響を受けました。同じく薬価改定があった腎性貧血治療薬は減収幅が大きかったものの、2021年5月に薬価収載された「イズカーゴ。点滴静注用10mg」が大きく寄与したことなどにより、主力製品の売上合計は前期とほぼ同水準となりました。

主力製品以外では、契約金収入の減少およびアストラゼネカ株式会社の新型コロナウイルスに対するワクチン原液の国内製造の受託を予定どおり終了したことなどにより、売上高合計は前年同期に比べて減収となりました。

利益面におきましては、売上高の減収に伴い売上総利益が減少（前期比37.3%減）したことなどにより、営業利益は49億75百万円（前期比75.0%減）、経常利益は54億18百万円（前期比73.6%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は37億72百万円（前期比74.0%減）となりました。

積極的な研究活動および臨床試験の進捗に応じた開発活動の結果、研究開発費は22.7%増加し88億2百万円（前期比16億26百万円増）となりました。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	増減
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	%
売上高	51,082	34,343	△32.8
営業利益	19,933	4,975	△75.0
経常利益	20,512	5,418	△73.6
親会社株主に帰属する当期純利益	14,507	3,772	△74.0

## ②主な売上

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	増減
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	%
ヒト成長ホルモン製剤 グロウジェクト <sup>®</sup>	12,945	12,261	△5.3
ムコ多糖症Ⅱ型治療剤 イズカーゴ。点滴静注用	3,003	4,428	47.4
腎性貧血治療薬	5,875	4,696	△20.1
エポエチンアルファBS注「JCR」	2,876	2,710	△5.8
ダルベポエチンアルファBS注「JCR」	2,998	1,986	△33.7
再生医療等製品 テムセル <sup>®</sup> HS注	3,497	3,404	△2.7
ファブリー病治療薬 アガルシダーゼベータBS点滴静注「JCR」	711	964	35.6
医療機器	102	103	1.3
契約金収入	10,571	6,546	△38.1
AZD1222原液	14,375	1,931	△86.6

(注) 契約金収入は事業化に向けた契約および販売提携に関する契約が締結されたこと等に由来します。

## ③研究開発の状況

## [ライソゾーム病治療薬]

- ・当社では現在、17種類を超えるライソゾーム病治療薬について、独自の血液脳関門通過技術「J-Brain Cargo<sup>®</sup>」を適用した新薬の研究開発に重点的に取り組んでおります。
- ・血液脳関門通過型ハンター症候群治療酵素製剤パピナフスプ アルファ（開発番号：JR-141）については、米国において米国食品医薬品局（FDA）より2022年12月にRare Pediatric Disease（※）の指定を受けております。2022年2月にはグローバル臨床第3相試験において最初の被験者への投薬が開始されており、現在、被験者の登録を進めております。なお、2020年12月にブラジル国家衛生監督庁（ANVISA）に製造販売承認申請を行っていましたが、2022年8月に非承認となりました。現在実施中のグローバル臨床第3相試験の結果を用いて再度申請を行うことを予定しております。
- ・血液脳関門通過型ムコ多糖症Ⅰ型治療酵素製剤Iepunafusp alfa（開発番号：JR-171）については、現在、日本・ブラジル・米国での臨床第1/2相試験において、2022年3月に計画した全例の登録を完了し、最終解析を実施しております。グローバルでの臨床第3相試験の早期開始に向けて、準備を進めております。
- ・血液脳関門通過型ムコ多糖症ⅢA型治療酵素製剤（開発番号：JR-441）については、現在、2023年度早期のグローバル臨床試験開始に向けた取り組みを進めております。
- ・血液脳関門通過型ムコ多糖症ⅢB型治療酵素製剤（開発番号：JR-446）については、現在、2024年度中のグローバル臨床試験開始に向けた取り組みを進めております。
- ・その他のJ-Brain Cargo<sup>®</sup>を適用したライソゾーム病治療薬（ポンペ病治療薬（開発番号：JR-162）、スライ症候群治療薬（開発番号：JR-443）、GM2ガングリオシドーシス治療薬（開発番号：JR-479）についても、研究開発を順次行うとともにグローバル展開を推進してまいります。なお、フコシドーシス治療薬（開発番号：JR-471）につきましても、2022年10月に締結した実施許諾契約に基づき、株式会社メディパルホールディングスに対し、日本を除く全世界における研究・開発、製造および販売などの事業化に関する再実施許諾権付の独占的実施権を許諾いたしました。本治療薬を創出した企業としてライセンサーの立場で参画し、本治療薬の早期事業化に貢献いたします。

## [基盤技術の創出]

- ・JCR 独自の血液脳関門通過技術「J-Brain Cargo<sup>®</sup>」技術の様々なモダリティへの応用可能性を広げる研究の他、J-Brain Cargo<sup>®</sup>技術に続く新たな基盤技術の創出に注力しております。
- ・2023年3月にライソゾーム病に対する J-Brain Cargo<sup>®</sup>技術を適用した遺伝子治療に関する武田薬品工業株式会社との共同研究開発契約に基づく、非臨床PoCを達成しました。
- ・2023年3月にアレクシオン・アストラゼネカ・レアディジェズと神経変性疾患を対象疾患として、J-Brain Cargo<sup>®</sup>技術を適用した非公開の治療薬候補物質の共同研究、選択権およびライセンス契約を締結しました。

## [再生医療等製品]

- ・「テムセル<sup>®</sup>HS注」の新たな適応拡大として新生児低酸素性虚血性脳症（開発番号：JR-031HIE）に対する臨床第1/2相試験を終了し、現在解析中です。
- ・帝人株式会社との共同開発であった他家（同種）歯髄由来幹細胞（DPC）を用いた急性期脳梗塞を適応症とする再生医療等製品（開発番号：JTR-161/JR-161）については、2022年4月に共同開発を終結することで合意いたしました。

## [ヒト成長ホルモン製剤]

- ・「グロウジェクト<sup>®</sup>」へのSHOX異常症（開発番号：JR-401X）の効能追加については、2022年7月に製造販売承認申請を行いました。
- ・遺伝子組換え持続型成長ホルモン製剤（開発番号：JR-142）の臨床第2相試験を実施しており、予定していた統計解析を完了し、臨床第3相試験の開始に向けた準備を進めています。

※ Rare Pediatric Disease指定

希少小児疾患の予防と治療のための新薬および生物製剤の開発を促進することを目的としているもの。今後の米国における製造販売承認のための優先審査バウチャーを取得できる可能性がある。

④次期の見通し

次期の連結業績の見通しは次のとおりです。

	当期実績 (2023年3月期)	次期見通し (2024年3月期)	増減額	増減率
売上高(百万円)	34,343	36,900	2,556	+7.4%
営業利益(百万円)	4,975	5,600	624	+12.5%
経常利益(百万円)	5,418	5,200	△218	△4.0%
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	3,772	3,800	27	+0.7%

(売上高)

ハンター症候群治療薬イズカーゴ。およびファブリー病治療薬アガルシダーゼベータにつきましては、順調な販売数量の伸長による増収を見込んでおり、主力製品につきましては当期と同水準の売上を見込んでおります。また、ライセンス事業につきましても引き続き積極的に取り組んでまいります。

(利益)

研究開発活動につきましては、将来の更なる飛躍に向けて重要な位置付けと捉え、今後数年間は積極的な投資を見込んでおります。研究開発費は増加するものの、営業利益は増益となる56億円(当期比12.5%増)を見込んでおります。なお、経常利益は52億円(当期比4.0%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は38億円(当期比0.7%増)を見込んでおります。

(2) 財政状態に関する概況

①資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末における資産合計は949億37百万円(前連結会計年度末比21億96百万円減)、負債合計は425億23百万円(前連結会計年度末比35億21百万円減)、純資産合計は524億13百万円(前連結会計年度末比13億24百万円増)となりました。

流動資産は、現金及び預金および売掛金及び契約資産が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ143億85百万円減少して478億2百万円となりました。固定資産につきましては、有形固定資産が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ121億88百万円増加して471億35百万円となりました。

流動負債は、未払法人税等が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ62億92百万円減少して357億62百万円となりました。固定負債は、長期借入金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ27億70百万円増加して67億61百万円となりました。

純資産につきましては、配当金の支払があった一方で親会社株主に帰属する当期純利益の計上などにより、前連結会計年度末に比べ13億24百万円増加して524億13百万円となりました。

これらの結果、当連結会計年度末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ2.4ポイント上昇して54.2%となりました。

現時点では当社グループにおいて、新型コロナウイルス感染症の影響は受けておりませんが、今後の世界情勢の見通しが立たない中、当社グループがグローバルで持続的な成長を行うために、機動的かつ安定的に資金調達手段を確保する必要があり、各金融機関との間で、バックアップラインとして運転資金を確保する事を目的として、総額155億円のコミットメントライン契約を締結しております。

## ②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ174億54百万円減少して132億78百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況および主な要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、55億0百万円(前連結会計年度比147億89百万円の支出増)となりました。これは主に、棚卸資産の増加額38億77百万円、法人税等の支払額82億79百万円があった一方で、税金等調整前当期純利益の計上額54億12百万円があったことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、150億2百万円(前連結会計年度比117億52百万円の支出増)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出76億54百万円、関係会社株式の取得による支出67億17百万円があったことなどによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、19億48百万円(前連結会計年度比41億27百万円の収入増)となりました。これは主に、長期借入金の増加額47億50百万円があった一方で、配当金の支払額27億39百万円があったことなどによるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
自己資本比率	71.1%	66.6%	51.3%	51.8%	54.2%
時価ベースの自己資本比率	472.3%	607.9%	600.6%	287.6%	185.7%
キャッシュ・フロー 対有利子負債比率	1.5年	1.8年	1.8年	2.0年	一年
インタレスト・カバレッジ・ レシオ	182.4倍	219.0倍	223.7倍	202.9倍	一倍

(注) 自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

※いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

※株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

※キャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローを採用しております。有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象にしております。また、利払いについては連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

※2023年3月期のキャッシュ・フロー対有利子負債比率およびインタレスト・カバレッジ・レシオは、営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスのため記載しておりません。

## (3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主の皆様に対する利益の還元を経営上の重要な施策の一つとして位置づけております。

剰余金の配当等の決定に関しては、将来の利益の源泉となる新薬開発や経営体質強化のための内部留保を確保しつつ、業績およびキャッシュ・フローの状況などを勘案しながら継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針としております。

当期は前期比減益となりましたが、主力製品の販売ならびに研究開発の進捗はいずれも順調に推移していることから、当期の期末配当金につきましては、上記の基本方針のもと2023年5月11日開催の取締役会におきまして1株当たり10円とさせていただきますことを決議いたしました。これにより、中間配当を加えました通期の配当金は1株につき20円(中間配当金10円、期末配当金10円)となり、前期に比べて2円の減配となります。

内部留保資金につきましては、企業体質を強化し、持続的な収益向上と利益還元へ寄与する原資として有効活用してまいります。

また、次期(2024年3月期)の配当につきましては、1株当たり20円(中間配当金10円、期末配当金10円)を予定しております。

## 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、会計基準につきまして日本基準を採用しております。

国際会計基準につきましては、日本国内の採用動向を踏まえつつ検討を進めていく方針であります。

## 3. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	30,733	13,278
売掛金及び契約資産	15,585	11,137
有価証券	244	—
商品及び製品	2,121	1,098
仕掛品	5,024	5,717
原材料及び貯蔵品	7,491	11,699
その他	986	4,870
流動資産合計	62,188	47,802
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,086	7,128
機械装置及び運搬具（純額）	1,308	1,003
土地	10,379	10,379
建設仮勘定	8,019	13,008
その他（純額）	989	1,161
有形固定資産合計	26,782	32,681
無形固定資産		
特許権	2,711	2,434
その他	249	1,217
無形固定資産合計	2,960	3,652
投資その他の資産		
投資有価証券	2,230	8,867
退職給付に係る資産	213	214
繰延税金資産	2,433	1,357
その他	330	366
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	5,202	10,800
固定資産合計	34,946	47,135
資産合計	97,134	94,937



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,324	1,563
短期借入金	15,150	16,800
1年内償還予定の社債	—	500
未払金	5,189	2,803
未払法人税等	5,915	33
圧縮未決算特別勘定	11,996	11,996
賞与引当金	902	974
役員賞与引当金	102	114
その他	1,473	975
流動負債合計	42,054	35,762
固定負債		
社債	500	—
長期借入金	2,450	5,500
従業員株式給付引当金	78	95
退職給付に係る負債	870	924
その他	92	241
固定負債合計	3,990	6,761
負債合計	46,045	42,523
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	9,061	9,061
資本剰余金	10,994	10,384
利益剰余金	33,241	34,273
自己株式	△3,600	△2,978
株主資本合計	49,697	50,740
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	619	555
繰延ヘッジ損益	0	—
為替換算調整勘定	30	146
退職給付に係る調整累計額	△32	△20
その他の包括利益累計額合計	618	681
新株予約権	567	740
非支配株主持分	205	251
純資産合計	51,089	52,413
負債純資産合計	97,134	94,937

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
売上高	51,082	34,343
売上原価	10,461	8,886
売上総利益	40,620	25,456
販売費及び一般管理費	20,686	20,480
営業利益	19,933	4,975
営業外収益		
受取利息	7	33
受取配当金	28	28
為替差益	551	387
その他	68	91
営業外収益合計	656	541
営業外費用		
支払利息	45	44
支払手数料	12	15
棚卸資産廃棄損	—	20
その他	18	18
営業外費用合計	77	99
経常利益	20,512	5,418
特別利益		
投資有価証券売却益	0	10
特別利益合計	0	10
特別損失		
固定資産処分損	2	16
契約解約損	※ 1,000	—
その他	105	—
特別損失合計	1,108	16
税金等調整前当期純利益	19,404	5,412
法人税、住民税及び事業税	5,549	525
法人税等調整額	△663	1,099
法人税等合計	4,886	1,625
当期純利益	14,517	3,787
非支配株主に帰属する当期純利益	10	14
親会社株主に帰属する当期純利益	14,507	3,772

## (連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
当期純利益	14,517	3,787
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△71	△63
繰延ヘッジ損益	0	△0
為替換算調整勘定	68	147
退職給付に係る調整額	△0	11
その他の包括利益合計	△3	94
包括利益	14,514	3,881
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	14,483	3,834
非支配株主に係る包括利益	31	46

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	9,061	10,941	20,904	△3,685	37,222
当期変動額					
剰余金の配当			△2,170		△2,170
親会社株主に帰属する 当期純利益			14,507		14,507
自己株式の処分		53		85	138
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	53	12,336	85	12,475
当期末残高	9,061	10,994	33,241	△3,600	49,697

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主 持分	純資産合計
	その他有価 証券評価差 額金	繰延ヘッジ損 益	為替換算調 整勘定	退職給付に 係る調整累 計額	その他の包 括利益累計 額合計			
当期首残高	691	0	△18	△31	641	517	174	38,557
当期変動額								
剰余金の配当								△2,170
親会社株主に帰属する 当期純利益								14,507
自己株式の処分								138
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△71	0	48	△0	△23	49	30	56
当期変動額合計	△71	0	48	△0	△23	49	30	12,531
当期末残高	619	0	30	△32	618	567	205	51,089

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	9,061	10,994	33,241	△3,600	49,697
当期変動額					
剰余金の配当			△2,740		△2,740
親会社株主に帰属する 当期純利益			3,772		3,772
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		△610		621	10
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					—
当期変動額合計	—	△610	1,031	621	1,042
当期末残高	9,061	10,384	34,273	△2,978	50,740

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主 持分	純資産合計
	その他有価 証券評価差 額金	繰延ヘッジ損 益	為替換算調 整勘定	退職給付に 係る調整累 計額	その他の包 括利益累計 額合計			
当期首残高	619	0	30	△32	618	567	205	51,089
当期変動額								
剰余金の配当								△2,740
親会社株主に帰属する 当期純利益								3,772
自己株式の取得								△0
自己株式の処分								10
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△63	△0	115	11	62	173	45	282
当期変動額合計	△63	△0	115	11	62	173	45	1,324
当期末残高	555	—	146	△20	681	740	251	52,413

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	19,404	5,412
減価償却費	1,945	1,997
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	74	56
賞与引当金の増減額 (△は減少)	51	71
株式報酬費用	177	173
受取利息及び受取配当金	△35	△62
支払利息	45	44
為替差損益 (△は益)	△544	△959
売上債権の増減額 (△は増加)	△7,402	4,448
未収入金の増減額 (△は増加)	△99	△1,179
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,082	△3,877
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,608	238
未払金の増減額 (△は減少)	3,033	△2,401
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△120	△312
未払法人税等の増減額 (△は減少)	236	△417
契約負債の増減額 (△は減少)	—	417
その他	△2,257	△887
小計	11,817	2,762
利息及び配当金の受取額	35	62
利息の支払額	△45	△46
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△2,517	△8,279
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,289	△5,500
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△300	—
定期預金の払戻による収入	300	—
有価証券の売却及び償還による収入	—	259
有形固定資産の取得による支出	△11,333	△7,654
助成金の受取額	8,167	—
無形固定資産の取得による支出	△74	△906
関係会社株式の取得による支出	—	△6,717
その他	△9	15
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,250	△15,002
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	3,000
長期借入れによる収入	750	4,750
長期借入金の返済による支出	△750	△3,050
リース債務の返済による支出	△20	△22
自己株式の純増減額 (△は増加)	10	10
配当金の支払額	△2,169	△2,739
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,179	1,948
現金及び現金同等物に係る換算差額	612	1,099
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,472	△17,454
現金及び現金同等物の期首残高	26,260	30,733
現金及び現金同等物の期末残高	30,733	13,278

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる連結財務諸表への影響はありません。

(連結損益計算書関係)

※契約解約損

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

前臨床段階であった一部の開発品に関しまして、締結していた優先交渉権について契約当事者間で双方合意の上で、2021年5月に契約を解消することとなりました。

本件に伴い、契約解約損が発生しております。

(セグメント情報)

当社グループは「医薬品事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## (1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎、1株当たり当期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり当期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
(1) 1株当たり純資産額 (円)	406.57	412.11
(算定上の基礎)		
連結貸借対照表の純資産の部の合計額 (百万円)	51,089	52,413
普通株式に係る純資産額 (百万円)	50,316	51,421
差額の主な内訳 (百万円)		
新株予約権	567	740
非支配株主持分	205	251
普通株式の発行済株式数 (株)	129,686,308	129,686,308
普通株式の自己株式数 (株)	5,929,344	4,910,773
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数 (株)	123,756,964	124,775,535

項目	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
(2) 1株当たり当期純利益 (円)	117.26	30.35
(算定上の基礎)		
連結損益計算書上の親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	14,507	3,772
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	14,507	3,772
普通株式の期中平均株式数 (株)	123,720,398	124,307,714
(3) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	116.80	30.22
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額 (百万円)	—	—
潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定 に用いられた普通株式増加数の主要な内訳 (株)		
新株予約権	488,821	530,608
普通株式増加数 (株)	488,821	530,608
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり当期純利益の算定に含まれなかった潜在株 式の概要	—	—

(注) 株主資本において自己株式として計上されている株式給付信託制度における信託が保有する自社の株式は、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式数に含めております。また、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式数に含めております。

1株当たり当期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前連結会計年度349,666株、当連結会計年度331,246株であり、1株当たり純資産額の算定上、控除した当該自己株式の期末株式数は、前連結会計年度343,600株、当連結会計年度324,900株であります。



(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 4. その他

研究開発項目

遺伝子組換え医薬品

開発番号 (一般名)	開発段階	適応症等	備考
JR-141 (血液脳関門通過型遺伝子組換え イブロン酸-2-スルファターゼ)	グローバル: 臨床 第3相試験	ムコ多糖症II型 (ハンター症候群)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo <sup>®</sup> 」採用
JR-171 (血液脳関門通過型遺伝子組換え $\alpha$ -L-イブロニダーゼ)	グローバル: 臨床 第1/2 相試験	ムコ多糖症I型 (ハーラー症候群等)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo <sup>®</sup> 」採用 「J-MIG System <sup>®</sup> 」採用
JR-162 (J-Brain Cargo <sup>®</sup> 適用遺伝子組換え酸性 $\alpha$ -グルコシダーゼ)	前臨床	ボンペ病	酵素補充療法 「J-Brain Cargo <sup>®</sup> 」採用
JR-441 (血液脳関門通過型遺伝子組換え ヘパランN-スルファターゼ)	前臨床	ムコ多糖症III A型 (サンフィリップ症候群 A型)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo <sup>®</sup> 」採用
JR-443 (血液脳関門通過型遺伝子組換え $\beta$ -グルクロニダーゼ)	前臨床	ムコ多糖症VII型 (スライ症候群)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo <sup>®</sup> 」採用
JR-446 (血液脳関門通過型遺伝子組換え $\alpha$ -N-アセチルグルコサミニダー ゼ)	前臨床	ムコ多糖症III B型 (サンフィリップ症候群 B型)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo <sup>®</sup> 」採用
JR-479 (血液脳関門通過型遺伝子組換え $\beta$ -ヘキソサミニダーゼA)	前臨床	GM2 ガングリオシドー シス (テイ・サックス病、サ ンドホフ病)	酵素補充療法 「J-Brain Cargo <sup>®</sup> 」採用
JR-471 (血液脳関門通過型遺伝子組換え $\alpha$ -L-フコシダーゼ)	前臨床	フコシドーシス	酵素補充療法 「J-Brain Cargo <sup>®</sup> 」採用
JR-401X (遺伝子組換え 天然型ヒト成長ホルモン)	承認申請	SHOX異常症における 低身長症	「グロウジェクト <sup>®</sup> 」 効能追加
JR-142 (遺伝子組換え持続型成長ホルモン)	臨床 第2相試験	小児成長ホルモン分泌不 全性低身長症	「J-MIG System <sup>®</sup> 」採用

再生医療等製品

開発番号 (一般名)	開発段階	適応症等	備考
JR-031HIE (ヒト体性幹細胞加工製品)	臨床 第1/2 相試験	新生児低酸素性虚血性脳 症	「テムセル <sup>®</sup> HS注」 適応拡大